

## 地域作りに向けた回想法の認知度

—地域包括支援センターと社会福祉協議会への意識調査から—

ツダ リエコ  
津田 理恵子\*

**目的** 地域福祉を担う地域包括支援センターと社会福祉協議会の地域における回想法活用に関する意識を明確にし、今後の地域作りに向けた方向性を見いだすことを目的とした。

**方法** 調査対象は、日本全国の各都道府県から7件ずつ無作為抽出した地域包括支援センター329件と社会福祉協議会329件の合計658件で、2013年12月～2014年2月の期間に往復はがきによる郵送法で回想法に関する意識調査を実施し、無記名、自己記入式で回答を求めた。分析にSPSS21.0を使用し、施設間の比較には $\chi^2$ 検定を用いた。自由記述回答は、内容を忠実にカテゴリー化して施設ごとに表に整理した。倫理的配慮について説明し同意書による承諾を得た。

**結果** 有効回答は地域包括支援センターが232件（63.6%）、社会福祉協議会が133件（36.4%）で、回想法の技法を「知っている」と答えたのは全体の56.7%で、回想法の技法が地域作りに役立つことを「知っている」と答えたのは32.6%、回想法を活用した地域作りに「関心がある」と答えたのは68.5%であった。地域包括支援センターと社会福祉協議会の比較では、地域包括支援センターの方が回想法の技法が地域作りに役立つことを知っている」と答え、回想法を活用した地域作りに関心があると答えていた。

**考察** 地域福祉を担う地域包括支援センターと社会福祉協議会は回想法を活用した地域作りの拠点としてその役割を担うことが期待できることから、回想法の技法が地域作りに役立つことを広く啓発していくことが大切である。そして、地域で回想法を活用した地域作りに取り組むことで介護予防効果が期待できるだけでなく、既存の社会資源や地域住民の力を活用した認知症高齢者を地域で支える仕組み作りに発展する可能性がある。

**キーワード** 回想法の認知度、地域作り、地域包括支援センター、社会福祉協議会

### I 緒 言

回想法は、アメリカの精神科医Butler<sup>1)</sup>によって提唱された理論である。Butlerは、人は死が近づくにつれ、過去を回想する頻度が高まるが、高齢者自身が自分の歩んできた人生を振り返り、その意味を模索しようとすることは、自然で普遍的な過程で、このような高齢者の回想に対し、共感的・受容的態度で意図的に介入することで、老年期の最終課題である人生の統合が達成でき

る可能性が開かれると提唱している。わが国では、野村<sup>2)</sup>が特別養護老人ホームでグループ回想法を実践し、その効果を報告し回想法研究がスタートしたとされている。論文情報ナビゲーター国立情報科学研究所による論文検索システムで、回想法のキーワードでヒットしたのは2006年4月1日現在で203件、2014年4月1日現在では581件と、徐々に研究報告件数が増加し、回想法の効果も示されてきている。

筆者が取り組んだ回想法の実証的研究における効果では、高齢者の認知機能面、精神機能・感情面、身体機能・行動面の改善や、認知症高

\* 神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科教授

高齢者の周辺症状の軽減<sup>3)</sup>だけでなく、グループ回想法に参加した介護職員にとっても、バーンアウト得点の軽減に影響を与えることが示された<sup>4)</sup>。さらに、地域で開催したグループ回想法に元気高齢者が参加することで、他者との交流が促され社会参加へと発展することが確認でき<sup>5)</sup>、回想法を活用した地域作りを目指す中で、元気高齢者・虚弱高齢者ともに生きがいの向上に向けて影響がある<sup>6)</sup>ことが示された。

このように、回想法の技法を活用した実践において様々な効果が確認できた。また、2012年に実施した、近畿2府4県の高齢者福祉施設180件を対象とした回想法の認知度調査の結果、回想法の技法を「知らない」と答えた高齢者福祉施設が51%で、高齢者福祉の実践現場においても回想法の技法が普及していない現状が明確になった<sup>7)</sup>。

そこで、日本全国の地域包括支援センター、社会福祉協議会、介護老人保健施設、一般型特定施設入居者生活介護、介護老人福祉施設、認知症対応型共同生活介護、通所介護・リハビリの合計7種類の施設・事業所を対象に回想法に関する意識を明らかにすることを目的にアンケート調査を実施した。その結果、有効回答率は69.5%で回想法の技法を「知っている」と答えたのは62.9%にのぼっていた<sup>8)</sup>。本稿では、この調査結果のなかから、地域福祉の担い手となる地域包括支援センターと社会福祉協議会の調査結果に焦点を絞り、地域作りにおける回想法活用に関する今後の方向性を見いだすことを目的とした。

## Ⅱ 方 法

調査対象は、日本全国の地域包括支援センター、社会福祉協議会の中から都道府県ごとに7件ずつ、一覧表<sup>9)10)</sup>をもとに無作為抽出した、地域包括支援センター329件と社会福祉協議会329件の合計658件である。地域包括支援センターと社会福祉協議会を選択した理由は、筆者が回想法を活用した地域作りにおける研究において、実践経験があるためである。

表1 地域包括支援センター・社会福祉協議会へのアンケート

|   |
|---|
| 1. 勤務先の所在地について都道府県をお答えください。<br>( )  |
| 2. 勤務先の種別をお答えください。<br>( )   |
| 3. 以下の回想法に関する質問の回答は選択肢に○を入れてお答えください。<br>① 回想法の技法を知っていますか？<br>とても知っている・まあまあ知っている<br>あまり知らない・全然知らない<br>② 回想法の技法を活用することで地域作りに役立つことを知っていますか？<br>とても知っている・まあまあ知っている<br>あまり知らない・全然知らない<br>③ 回想法の技法を活用した地域作りに関心がありますか？<br>とてもある・まあまあある<br>あまりない・全然ない |
| 4. 回想法を活用した支援についてあなたの考えを自由にお書きください。   |

調査期間は、2013年12月～2014年2月の期間である。調査方法は、往復はがきによる郵送法で無記名、自己記入式で回答を求めた。アンケート用紙(表1)は、回想法の技法の認知度と回想法を活用した地域作りに関して、「とても」～「全然」までの4件法で回答を得て、「回想法を活用した支援」について回答者の考えを自由記述で回答を得た。

なお、本稿における「地域における回想法の活用」とは、地域作りを目指すツールの1手法として回想法を活用した取り組みを指している。取り組んでいる地域によって、住民同士の交流を促す、健康作り対策、介護予防対策、認知症予防対策など、目的はさまざまであるが、どの地域においても地域を活性化し地域住民同士の支え合いを通して、安心できる住みやすい地域作りを目指している。具体的には、地域でグループ回想法を定期的もしくは不定期に開催する場合もあれば、傾聴ボランティアが個人回想法の技法を活用している場合、地域に回想法センターをオープンし住民が集える場作りに取り組んでいる場合など多様である。本稿では、地域の特性に合わせて、意図的に思い出に働きかける回想法の技法を1つのツールとして活用し、地域作りに取り組んでいると意識している場合をすべて「回想法を活用している」ものとした。

倫理的配慮として、研究目的・方法・予想さ

れる損害と効果、個人情報が出す恐れがないことなどについて、個人情報保護法を遵守し、知り得た個人情報を漏えい、利用しない旨について、文書により説明し同意書による承諾を得た。

分析方法はSPSS21.0を使用し、施設間の差は $\chi^2$ 検定で検定し、有意水準を5%とした。自由記述回答については、内容を忠実にカテゴリー化して施設ごとに表に整理した。

### Ⅲ 結 果

658枚のアンケート用紙のうち、有効回答枚数は365枚で有効回答率が55.5%であった。

#### (1) 基本特性

地域包括支援センターと社会福祉協議会の都道府県ごとの件数を表2に整理した。勤務先種別では、地域包括支援センターが合計で232件(63.6%)、社会福祉協議会が133件(36.4%)であった。

#### (2) 回想法に関する意識

回想法に関する意識をみると(表3)、全体では回想法について「知っている」と答えたのが56.7%、地域作りに役立つことを「知っている」と答えたのが32.6%、回想法を活用した地域作りに「関心がある」と答えたのが68.5%であった。

地域包括支援センターの中で回想法を「知っている」と60.8%が答え、地域作りに役立つことを「知っている」と35.8%が答え、回想法を活用した地域作りに「関心がある」と72.4%が答えており、社会福祉協議会では回想法を「知っている」と49.6%が答え、地域作りに役立つことを「知っている」と27.1%が答え、回想法を活用した地域作りに「関心がある」と

表2 都道府県ごとの件数 (n=365)

|      | 総数    |       | 地域包括支援センター(件) | 社会福祉協議会(件) |     | 総数    |       | 地域包括支援センター(件) | 社会福祉協議会(件) |
|------|-------|-------|---------------|------------|-----|-------|-------|---------------|------------|
|      | 件数(件) | 割合(%) |               |            |     | 件数(件) | 割合(%) |               |            |
| 合計   | 365   | 100.0 | 232           | 133        |     |       |       |               |            |
| 北海道  | 12    | 3.3   | 6             | 6          | 三重  | 4     | 1.1   | 4             | -          |
| 青森   | 13    | 3.6   | 7             | 6          | 滋賀  | 8     | 2.2   | 7             | 1          |
| 岩手   | 9     | 2.5   | 5             | 6          | 京都  | 6     | 1.6   | 5             | 1          |
| 宮城   | 5     | 1.4   | 3             | 4          | 大阪  | 9     | 2.5   | 6             | 3          |
| 秋田   | 8     | 2.2   | 3             | 2          | 兵庫  | 9     | 2.5   | 2             | 7          |
| 山形   | 9     | 2.5   | 6             | -          | 奈良  | 6     | 1.6   | 5             | 1          |
| 福島   | 10    | 2.7   | 6             | 3          | 和歌山 | 3     | 0.8   | 2             | 1          |
| 茨城   | 10    | 2.7   | 7             | 4          | 鳥取  | 5     | 1.4   | 2             | 3          |
| 栃木   | 8     | 2.2   | 3             | 3          | 島根  | 10    | 2.7   | 9             | 1          |
| 群馬   | 7     | 1.9   | 4             | 5          | 岡山  | 9     | 2.5   | 7             | 2          |
| 埼玉   | 8     | 2.2   | 4             | 4          | 広島  | 13    | 3.6   | 5             | 8          |
| 千葉   | 6     | 1.6   | 5             | 1          | 山口  | 5     | 1.4   | 3             | 2          |
| 東京都  | 5     | 1.4   | 2             | 3          | 徳島  | 5     | 1.4   | 4             | 1          |
| 神奈川県 | 4     | 1.1   | 3             | 1          | 香川  | 9     | 2.5   | 7             | 2          |
| 新潟   | 12    | 3.3   | 7             | 5          | 愛媛  | 12    | 3.3   | 5             | 7          |
| 富山   | 7     | 1.9   | 6             | 1          | 高知  | 7     | 1.9   | 5             | 2          |
| 石川   | 8     | 2.2   | 7             | 1          | 福岡  | 9     | 2.5   | 5             | 4          |
| 福井   | 5     | 1.4   | 4             | 1          | 佐賀  | 11    | 3.0   | 5             | 6          |
| 山梨   | 7     | 1.9   | 6             | 1          | 長崎  | 8     | 2.2   | 6             | 2          |
| 長野   | 5     | 1.4   | 4             | 1          | 熊本  | 10    | 2.7   | 4             | 6          |
| 岐阜   | 5     | 1.4   | 4             | 1          | 鹿児島 | 9     | 2.5   | 6             | 3          |
| 静岡県  | 5     | 1.4   | 4             | 1          | 宮崎  | 8     | 2.2   | 6             | 2          |
| 愛知県  | 7     | 1.9   | 5             | 2          | 鹿児島 | 9     | 2.5   | 4             | 5          |
|      | 5     | 1.4   | 4             | 1          | 沖縄  | 6     | 1.6   | 2             | 4          |

表3 回想法に関する施設間の意識の比較

|                          | 合計 (n=365) |       | 地域包括支援センター (n=232) |       | 社会福祉協議会 (n=133) |       | p値 <sup>1)</sup> |
|--------------------------|------------|-------|--------------------|-------|-----------------|-------|------------------|
|                          | 件数(件)      | 割合(%) | 件数(件)              | 割合(%) | 件数(件)           | 割合(%) |                  |
| 回想法の技法を知っているか            |            |       |                    |       |                 |       |                  |
| 知っている                    | 207        | 56.7  | 141                | 60.8  | 66              | 49.6  | 0.025*           |
| 知らない                     | 158        | 43.3  | 91                 | 39.2  | 67              | 50.4  |                  |
| 回想法の技法が地域作りに役立つことを知っているか |            |       |                    |       |                 |       |                  |
| 知っている                    | 119        | 32.6  | 83                 | 35.8  | 36              | 27.1  | 0.055            |
| 知らない                     | 246        | 67.4  | 149                | 64.2  | 97              | 72.9  |                  |
| 回想法を活用した地域作りに関心があるか      |            |       |                    |       |                 |       |                  |
| 関心がある                    | 250        | 68.5  | 168                | 72.4  | 82              | 61.7  | 0.023*           |
| 関心がない                    | 115        | 31.5  | 64                 | 27.6  | 51              | 38.3  |                  |

注 1) 「とても」と「まあまあ」を「あり」とし、「あまり」と「全然」を「なし」として「あり」と「なし」の2つのカテゴリーにまとめた2×2の $\chi^2$ 検定。\*(p<0.05)

61.7%が答えていた。

地域包括支援センターと社会福祉協議会の比較では、地域包括支援センターの方が回想法の技法を「知っている」という回答が有意に多く(p=0.025)、回想法の技法が地域作りに役立つことを「知っている」傾向があり(p=0.055)、回想法を活用した地域作りに「関心がある」という回答が有意に多かった(p=0.023)。

## (3) 自由記述回答

回想法を活用した支援の自由記述で得た回答は、カテゴリーごとに全体と施設にかけて表4に整理した。地域包括支援センター(20.4%)と社会福祉協議会(16.4%)ともに最も多かったのは、「回想法について学びたい」となっており、地域包括支援センターのみに回答があったのは、「行政主導では定着するの

に無理があると思う」が3.1%、「回想法を導入した際の評価が難しいと思う」が1.0%となっていた。

地域包括支援センターで次いで多かったのが、「回想法を活用することは有効だと思う」が18.4%、「回想法を活用した地域作りに取り組んでいる」15.3%、「回想法を活用した地域作りに取り組みたいと思う」11.2%、「このアンケートで回想法が地域作りにつながることを知った」と「介護予防に活用できると思う」が8.2%の順となっていた。

社会福祉協議会では、次いで「このアンケートで回想法が地域作りにつながることを知った」が14.8%、「介護予防に活用できると思う」13.1%で、「回想法を活用した地域作りに取り組みたいと思う」「人手・時間がないため取り組めない」「サロン・見守り・傾聴ボランティアに役立つと思う」が11.5%と同数で多かった。

## IV 考 察

## (1) 回想法を活用した地域作りの拠点

アンケート調査の結果、回想法の認知度そのものよりも回想法を活用した地域作りに関心が高いことが確認できた。さらに、社会福祉協議会よりも地域包括支援センターの方が、回想法と回想法の技法が地域作りに役立つことを認識しており、回想法を活用した地域作りに関心が

表4 自由記述回答

|                           | 合計<br>(n=159) |           | 地域包括支援センター<br>(n=98) |           | 社会福祉協議会<br>(n=61) |           |
|---------------------------|---------------|-----------|----------------------|-----------|-------------------|-----------|
|                           | 件数<br>(件)     | 割合<br>(%) | 件数<br>(件)            | 割合<br>(%) | 件数<br>(件)         | 割合<br>(%) |
| 回想法について学びたいと思う            | 30            | 18.9      | 20                   | 20.4      | 10                | 16.4      |
| 回想法を活用することは有効だと思う         | 24            | 15.1      | 18                   | 18.4      | 6                 | 9.8       |
| 回想法を活用した地域作りに取り組んでいる      | 21            | 13.2      | 15                   | 15.3      | 6                 | 9.8       |
| 回想法を活用した地域作りに取り組みたいと思う    | 18            | 11.3      | 11                   | 11.2      | 7                 | 11.5      |
| アンケートで回想法が地域作りにつながることを知った | 17            | 10.7      | 8                    | 8.2       | 9                 | 14.8      |
| 介護予防に活用できると思う             | 16            | 10.1      | 8                    | 8.2       | 8                 | 13.1      |
| 人手・時間がないため取り組めない          | 14            | 8.8       | 7                    | 7.1       | 7                 | 11.5      |
| サロン・見守り・傾聴ボランティアに役立つと思う   | 12            | 7.5       | 5                    | 5.1       | 7                 | 11.5      |
| 行政主導では定着するのに無理があると思う      | 3             | 1.9       | 3                    | 3.1       | -                 | -         |
| 回想法を導入した際の評価が難しいと思う       | 2             | 1.3       | 2                    | 2.0       | -                 | -         |
| 資料館・博物館が活用できると思う          | 2             | 1.3       | 1                    | 1.0       | 1                 | 1.6       |

高いことが明らかになった。

各区市町村に設置される地域包括支援センター<sup>11)</sup>は、2005年の介護保険法改正で制定され、介護保険法115条の39第1項において、地域住民の心身の健康の保持および生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上および福祉の増進を包括的に支援することが目的である。

地域包括支援センターが設置されてからわずか10年であるが、その果たすべき役割は重大で、地域と一体となり地域住民の福祉の増進を目指し、地域力を活かした地域作りをすすめていくことが求められている。そして、地域において介護を受けている人とその家族にとどまらず、広く介護予防まで視野に入れた包括的な支援の展開が求められている。

アンケートの自由記述を社会福祉協議会と比較してみると、地域包括支援センターは実際の地域作りを想定した回答として「行政主導では定着するのに無理があると思う」と「回想法を導入した際の評価が難しいと思う」の回答があった。順位では「回想法を活用することは有効だと思う」「回想法を活用した地域作りに取り組んでいる」が上位にあり、地域包括支援センターは、地域作りにおいて回想法の技法をそのための1技法として意識していると捉えることができた。

筆者が、地域包括支援センターと協力して実施した地域作り<sup>12)</sup>に取り組んだ結果、地域に回

想センターが設置され、市内9カ所の地区と3カ所の認知症生活共同介護において定期的なグループ回想法が運営され、その運営において元気高齢者ボランティアの力が活用でき、元気高齢者・虚弱高齢者が共に生きがい感の向上を目指す仕組みが提案できた。

さらに、グループ回想法を運営した元気高齢者からは、「閉じこもりの人が元気になるなど回想法の効果を目の当たりにし、自分たちの地域をもっと住みやすい地域にしていきたい」という声が聞かれた。そして、認知症を患っていたグループ回想法参加者が徘徊により行方不明になった際、グループ回想法ボランティアが地域の中で発見した事例もあった。

この事例のように、回想法ボランティアは回想法の技法習得過程において、認知症高齢者への関わり方を学び、ボランティア活動を通して認知症高齢者との接点が生まれる。そのため、地域住民が広く回想法の技法を習得することができれば、徘徊が疑われる人を地域住民が発見した場合、声をかけることへのためらいが減り、行方不明になるケースを減らす一助になる可能性がある。

そして、地域包括支援センターが中心となった回想法を活用した地域作りに向けた取り組みは、地域住民である市民ボランティアのエンパワメントを活用した住民参加型のまちづくり方式であり、予防機能としてのネットワーク構築にもつながるといえるだろう。そのため、回想法を活用した地域作りの拠点として、今後も地域包括支援センターが担う役割は大きい。

一方で、社会福祉協議会<sup>13)</sup>は、社会福祉法109条によると、1. 社会福祉を目的とする事業の企画および実施、2. 社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助、3. 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整および助成、4. 社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業の4点が示されており、地域福祉の推進を図ることが目的となっている。

今回のアンケート結果では、地域包括支援センターよりも社会福祉協議会の方が回想法を活

用した地域作りに向けて関心は低かったが、社会福祉協議会は、地域住民や福祉関係者などの参加により、地域の福祉の推進に向けてその中核を担う非営利の民間組織として、さまざまな活動が求められている。

筆者が、社会福祉協議会と協力して実施した回想法を活用した地域作り<sup>14)</sup>では、認知症サポーターを中心とした地域住民と福祉関係者が同時に回想法実践者養成講座を受講し、地域の高齢者福祉施設の職員と認知症サポーターである地域住民の人間関係を形成した上で、高齢者福祉施設内での定期的なグループ回想法の運営に、認知症サポーターがボランティアとして参加することから始めた。

この結果、認知症サポーターにとってはボランティア先でも知っている職員がいるという安心感につながり、高齢者福祉施設におけるグループ回想法導入を妨げている人手不足を解消し、ボランティアを求めている施設側とボランティア活動を希望している地域の元気高齢者を結ぶ一助になった。

このことから、社会福祉協議会が中心となり回想法を活用した地域作りが広く周知されるよう広報していくことで、社会福祉協議会が回想法を活用した地域作りの拠点として、その本来の役割がさらに発揮されると期待できるだろう。

アンケートの自由記述において、回想法を活用した地域作りに向けて「行政主導では定着するのに無理がある」という回答があった。このことから、今後は地域にある施設や病院、企業などとともに、住民組織である自治会や老人会など、地域力を活用した地域作りに取り組み、その方法とともに効果について検証をしていくことなどにより、回想法を活用した地域作りの拠点を広げる試みも必要だろう。

## (2) 回想法を活用した地域作りの方向性

地域作りに回想法が有効であることは、近年になってから花岡ら<sup>15)</sup>や、来島ら<sup>16)</sup>によってその効果が示されている。そして、わが国における回想法を活用した町づくり支援の先駆者である遠藤<sup>17)</sup>は、地域回想法とは身近な場で誰もが

気軽に回想法を楽しむことができると述べたうえで、地域のなかで軽度認知症高齢者や閉じこもり傾向のある高齢者、虚弱高齢者から健康な高齢者まで、広く地域住民の方々を対象として、介護予防の観点から回想法を導入しようという試みであると記している。さらに、認知機能の改善や介護者の介護負担感の軽減、閉じこもりの改善やQOL（生活の質）における社会生活機能の向上、抑うつ傾向の改善など、介護予防上の特徴的な問題点の改善と、どの健康レベルの方に対しても回想法の有効性が確認されたと示している。

このことから、回想法を活用した地域作りは、身近な場所である自分の住んでいる地域で気軽に取り入れることができ、誰にとっても参加しやすく、回想法を活用した町づくりにおいて多くの効果が確認できていることから、回想法を活用した地域作りをすすめていくことで、さまざまな効果が期待できると捉えることができた。

一方で、アンケートの自由記述欄には、「人手・時間がなため取り組めない」や、「サロン・見守り・傾聴ボランティアに役立つと思う」という意見があった。このことから、地域作りに向けて人手や時間がない場合は、地域住民ボランティアの持っている力を活用して回想法を運営することや、地域住民が参加しやすい形式としてサロンや認知症カフェ、見守り活動や傾聴ボランティアにおいて回想法を活用するのも1つの方法かもしれない。

さらに、今回のアンケート結果から回想法を活用した地域作りに向けて関心が高いことが確認できたものの、自由記述欄の回答で最も多かったのが「回想法について学びたい」となっており、「このアンケートで回想法が地域作りにつながることを知った」や「回想法を導入した際の評価が難しいと思う」という回答もあった。そのため、回想法の技法が地域作りのために役立つことや、地域の特性に合わせて工夫して取り入れ運用できること、取り入れた際の評価方法などについて、地域で回想法を活用するための知識やスキルを学ぶ機会や場を設けていくことの必要性が確認できた。

また、回想法の実施場所について自由記述欄には、「資料館・博物館が活用できる」という意見もあった。この点については、日本博物館協会<sup>18)</sup>、日本民具学会<sup>19)</sup>、西日本図書館学会<sup>20)</sup>においても回想法の研究報告がされている。そこには、昔の懐かしい展示物や民具、書籍などが回想法の刺激材料として活用でき、地域回想法に博物館や資料館、図書館などが利用できると記されている。

これらのことから、学問領域を超えて多角的な視点から、回想法を活用した研究に取り組んでいくことが重要と考えられる。各地域における博物館、資料館そして図書館などが、いつでも地域住民が集える場として、懐かしい品物を囲んで自然に懐かしい話題で交流が図れるように定着していくことで、地域住民同士の交流が促され、既存の社会資源を活用した地域回想法の実現につながっていく可能性がある。

最後に、今回の研究の限界として、本稿はアンケート調査の結果をもとに分析したが、アンケートの回答に返信がなかった地域包括支援センターと社会福祉協議会が、全体の44.5%にのぼっていた。このことを踏まえ、有効回答の内容を検討する必要がある、無回答の意味も含めた考察を深めていくことが今後の課題である。

## 謝辞

本研究の趣旨をご理解下さりアンケート調査実施にあたり、ご協力頂きました地域包括支援センターと社会福祉協議会の職員の皆様に心から感謝致します。

## 付記

本研究は、文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C）2012-2014年）「懐かしさを活用した生きがいの維持・向上-元気高齢者と虚弱高齢者への支援-」（課題番号：24530765）を受けて実施した。

## 文 献

- 1) Butler, R.N. The life review : An interpretation of reminiscence in the aged. *Psychiatry*. 1963 ; 26 :

- 65-76.
- 2) 野村豊子. 回想法グループの実際と展開－特別養護老人ホーム居住老人を対象として. 社会老年学 1992 ; 35 : 32-46.
  - 3) 津田理恵子. 懐かしさから引き出す生きがい－特別養護老人ホームにおける回想法の介入効果－. 現代図書 2012 : 200-2.
  - 4) 津田理恵子. 行動観察スケールを活用した認知症高齢者への回想法の効果測定. 行動療法研究 2011 ; 37(2) : 77-90.
  - 5) 津田理恵子. ソーシャル・グループワークの実践－グループ回想法の介入効果－. 神戸女子大学健康福祉学部紀要 2011 ; 3 : 35-42.
  - 6) 津田理恵子. 回想法を活用した地域ケア. 地域ケアリング 2015 ; 17(4) : 52-7.
  - 7) 津田理恵子. 高齢者福祉施設・事業所における回想法の認知度と実状. 介護福祉研究 2013 ; 20(1) : 60-4.
  - 8) 津田理恵子. 回想法の認知度調査. 神戸女子大学健康福祉学部紀要 2015 ; 7 : 59-69.
  - 9) 厚生労働省. 全国の地域包括支援センターの一覧 都道府県ホームページ ([http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/kaigo\\_koureisha/chiiki-houkatsu](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu)) 2013.12.1.
  - 10) 都道府県・指定都市社会福祉協議会. 都道府県・指定都市社会福祉協議会の一覧 各都道府県社会福祉協議会ホームページ (<http://www.shakyo.or.jp/links/kenshakyo.html>) 2013.12.1.
  - 11) 福祉小六法. ミネルヴァ書房, 2012 : 364.
  - 12) 津田理恵子. 回想法の技法を活用した地域作りへの取り組み. 日本自立支援介護学会 2013 ; 6(2) : 146-54.
  - 13) 福祉小六法. ミネルヴァ書房, 2012 : 36.
  - 14) 津田理恵子. 回想法の技法を活用した地域作りへの取り組み－回想法実践者養成講座の振り返りから考える今後の展望－. 日本看護福祉学会誌 2013 ; 18(2) : 67-78.
  - 15) 花岡秀明, 村木敏明, 山根伸吾, 他. 地域ボランティア活動の有効性に関する予備的検討－回想法グループへの参加を通して－. 作業療法ジャーナル 2012 ; 46(3) : 292-6.
  - 16) 来島修志, 石井文康, 山中武彦, 他. 回想法を活用した認知症予防のためのまちづくりに関する研究. 日本福祉大学社会福祉論集 2014 ; 130 : 117-44.
  - 17) 遠藤英俊. 地域回想法ハンドブック. 河出書房新社, 2007 : 48.
  - 18) 吉井隆雄. 博物館における高齢者対象プログラム(回想法)とアウト・リーチ活動. 博物館研究 2006 ; 41(9) : 12-4.
  - 19) 岩崎竹彦. 民具を利用した回想法と博物館・資料館運営. 民具研究 2010 ; 142 : 52-9.
  - 20) 原田洋子. 図書館を拠点にしたまちづくり. 図書館学 2012 ; 100 : 27-34.